

寅さん歩 その 23

東京の博物館めぐりー19

千代田区ー5 平野 武宏



千代田区の博物館の続きで、千代田区の博物館を紹介した後に訪問した博物館です。写真右上は大手町フィナンシャルシティ ノースタワーです。

区内に多くある博物館(記念館・資料館・展示館等を総称します)から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の紹介と感想です。最寄り駅は代表例と出口です。

バーチャルウォーク 「中山道六十九次」の途中経過も報告します。

〔大手町フィナンシャルシティ エコミュージアム〕

千代田区追手町 1-9-4 5・6・7 最寄駅 三田線 大手町駅A4

大手町を歩いていて見つけた屋外の博物館です。パンフレットはありませんので詳細を知りたい方は大手町フィナンシャルシティ エコミュージアムのホームページをご覧ください。また、現地はいつでも見る事が出来ます。

2012 年 11 月「大手町フィナンシャルシティ」がオープンしました。地上 31 階のノースタワーと 35 階のサウスタワーからなり、「国際金融センター」を目指す大手町の象徴です。ノースタワーの横に「エコミュージアム」の看板(写真下)を見つけました。先端の環境技術を紹介する“エコ”の情報発信スペースです。



ノースタワーと日本橋川の間的小道の両側が「エコミュージアム」で右側(日本橋川)にインフォメーション(写真下)があり展示の全容が記されています。

このタイルは有田焼で電力を利用せず長時間発光できる蓄光、紫外線で光る蛍光の効果で、夜には違った雰囲気になるそうです。



写真下は再生素材などエコマテリアルで造られた「サロン」です。環境情報の可視化をテーマに「モニタリング ディスプレイ」(中央の画面)が設置されています。サウスタワー屋上の太陽光発電の発電量やサロン上の百葉箱から送られてくるリアルタイムの気象情報が表示。左の画面は「オイル産生微細藻類」(オイルの生産性がナタネやアブラヤシより高いと試算)、右の画面は「ユーグレナ」(バイオ燃料の原料として注目)等これからの環境技術の展示です。



写真下は「アーバンエコファーム」で先端技術を結集した植物工場システムによる超多毛作栽培で都市内の緑地や公開空地の高度活用の可能性を実証しています。内部は見られませんが、イチゴ、レタス、さつまいもを栽培中で生産が落ち着いたらマルシェや青空市での頒布を検討とのこと。



写真下左の「エディブル”シェード”ガーデン」(日照の少ない場所でも栽培可能な食べられる植物)、写真下右の「ほたるのせせらぎ」(ビルの厨房排水を循環利用して蛍の生育を実証)、「湿性植物の花壇」があります。



【こぼれ話】 鉄道の父 井上 勝

東京駅丸の内側の駅前広場に立ち、東京駅舎を眺めている銅像は東京駅舎を設計した「辰野金吾」だと思っていました。東京駅工事中に一時撤去されていて2017年(平成29年)に戻ってきた銅像をよく見たら「井上勝」でした。



以前に訪れた品川の東海寺大山墓地に
「鉄道の父 井上勝」のお墓があり、
お参りしたことがあります。

でも墓参りの主目的は「沢庵和尚」や「島倉千代子」でした。
「井上勝さま」重ねてのご無礼をお許してください。

「井上勝」は長州出身で伊藤博文、井上馨などと「長州五傑」と呼ばれた人物で、5人で英国領事館の斡旋で英国に密航、ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドンに留学、鉱山・土木・鉄道技術を学びました。1868年(明治元年)の帰国後は1872年(明治5年)の新橋―横浜間を始め、1889年(明治22年)東海道本線(現在の御殿場線経由)までの日本国内の鉄道発展に大きな貢献をされた「鉄道庁長官」で、「鉄道の父」と呼ばれた方です。

また、寅さん歩 東京の博物館めぐり 文京区-3で紹介した「東洋文庫」の「オリエントカフェ」経営の「小岩井牧場」の創業者の一人です。

以上、しっかりと勉強させていただきました。

【領土・主権展示館】 千代田区霞が関 3-8-1 虎の門三井ビルディング 1 階

最寄駅 銀座線 虎の門駅 3 番

2018 年(平成 30 年)1 月内閣官房領土・主権対策企画調整室により日比谷公園 市政会館にて開設しています。寅次郎、千代田区の博物館めぐりで訪問した時は現在地に移転した後でした。その後、コロナ騒動で訪問を忘れていましたが、「寅さん歩」愛読者でサポーター役の川澄武雄さん(前 F W A 会報編集長)から再開館の情報をいただき訪問しました。霞が関ビル側の外堀通りからが正面入口です。虎ノ門金比羅宮(ここは港区)の後に位置します。開館は 10 時～18 時、休館日は月曜日(祝日の場合は翌日)、12 月 29 日～1 月 3 日です。



10 時過ぎに到着、いつもの通り独占かと思いましたが、サラリーマン風やリュック姿の若者がすでに数名いて驚きました。北方領土、竹島、尖閣諸島別のブースで詳しく島々の歴史を振り返り、日本が領有する根拠、他国・地域の主張や行動、それに対する日本の対応や考え方を説明しています。写真上右のマスコットは「北方領土エリカちゃん」と知りました。



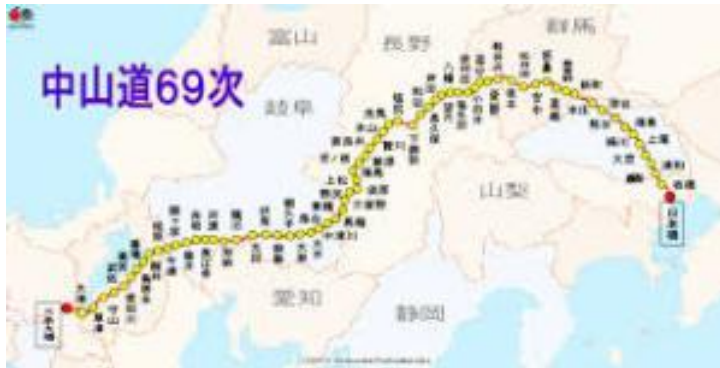
館内での企画展は写真左の「尖閣諸島と日本人」でパネル展示と映像の紹介（2020年7月28日～8月30日）です。

1895年(明治28年)沖縄県に編入されてから尖閣諸島を開拓した日本人がいました。多い時には200人を超える人々が暮らし、1920年(大正9年)には遭難した中国の漁民を救助し中国から感謝状を贈られています。本企画展では尖閣諸島に関わってきた日本人のロマンとドラマに迫ります。

国際社会の法と秩序を尊重して粘り強く進めて欲しいと感じた寅次郎でした。

〔バーチャルウォーク途中報告〕

八柳修之さん作成のバーチャルウォークコースがFWAホームページ「Y R・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「中山道六十九次」に挑戦です。7月7日、日本橋を出立し、8月16日、日本橋から17番目の坂本宿を通過し碓井峠越えに挑戦です。写真下右は碓井峠の第三橋梁（めがね橋）です。



しばらくは例会やY Rがお休みですので、自宅近くにマイお散歩コースを見つけ、その距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。

FWAのHP「Y R・四季の道」には「ひとりで歩くコーナー」があり、コースが紹介されています。マイお散歩や一人歩きでの距離を累計して進む「バーチャルコース」が多く掲載されていますのでご利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の3密にならないようご注意ください！

また、ウォーキングで人との距離(2m以上)が確保できる場合はマスクを外して、熱中症にご注意ください！

次回は 東京の博物館めぐりー20 です。

平野 寅次郎 拝